

楓園

ISSUE
2018 6/1

86

FÛEN [フウエン]

Toyo Eiwa Jogakuin
Public Relations Report

「巻頭特集」

Explore the roots of Toyo Eiwa

英和らしさの ルーツをたどる

リニューアル
創刊号!

東洋英和女学院
東洋英和楓の会

Explore the roots of Toyo Eiwa

英和らしさの ルーツをたどる

創立以来、先人たちが守ってきたキリスト教を礎とする学院の伝統と校風。
東洋英和らしさがどこから来ているのか、そのルーツを紐解いてみましょう。



1928

標語「敬神奉仕」を制定
教育の近代化へ

校長に就任したフランシス G. ハミルトンは、今日まで受け継がれている標語「敬神奉仕」や校章、校旗、校歌を制定。さらにガーネットとマリーゴールドをスクールカラーとし、自ら制服のデザインにも携わった。英和をさらに発展させるため、ハミルトン校長は学校の骨格を形作る改革を進めていった。

創立者のカートメルが横浜に上陸

東洋英和の創立者であるマーサ J. カートメルが、カナダ・メソジスト教会（1925年以降、カナダ合同教会）婦人ミッション（WMS）初の日本派遣婦人宣教師として、1882年、横浜に上陸。1884年、東鳥居坂町14番地に東洋英和女学校を開校し、東洋英和の歴史がスタートした。



1882

1900

東鳥居坂町8番地へ移転
新校舎を建築

現在の東洋英和女学院がある東鳥居坂町8番地（現在の六本木5丁目）へ移転。建築中に嵐で2度倒壊する憂き目に遭うも、当時校長であったイサベラ S. ブラックモアが、生徒や教職員を「雨の後に虹は出ます。恵みの虹を信じましょう」と励まし、1900年9月、木造4階建の新校舎が完成した。



聖書の言葉

二つのことをあなたに願います。 わたしが死ぬまで、それを拒まないでください。
むなしいもの、偽りの言葉を わたしから遠ざけてください。
貧しくもせず、金持ちにもせず わたしのために定められたパンで わたしを養ってください。
飽き足れば、裏切り 主など何者か、と言うおそれがあります。
貧しければ、盗みを働き わたしの神の御名を汚しかねません。

箴言 30章 7-9節

四半世紀以上前のことです。旧東ドイツで、牧師の家での夕食に招かれた時、食前の祈りの代わりにこの言葉が読まれました。パンとコーヒーだけの質素な食事でしたが、与えられたものを喜び、それに満足し、感謝して生きることの大切さを教えられた夜でした。

院長 深井 智朗

ヴォーリス設計の新校舎が落成

ハミルトン校長が、建築家、実業家で、キリスト教の伝道者でもあったウィリアム M. ヴォーリスに設計を依頼。1933年11月6日、マーガレット・クレイク記念講堂にて新校舎の落成式が行われた。1996年に建て替えられた現在の校舎は、旧校舎の面影を残しつつ建てられたもので、ヴォーリスと英和のつながりは今も続いている。

校舎落成記念品として配られた文鎮



1933

1986

横浜校地オープン 学院報「楓園」創刊

1986年、東洋英和の創立者カートメルが上陸した地である横浜（横浜校地）に短期大学が移転。同年、各々が互いの近況を共有し、同じ東洋英和の一員としての気持ちを持ち続けようと学院報「楓園」を創刊。そして1989年、4年制大学を横浜校地に開学しました。（上の写真は、横浜校地竣工式での西野嘉一郎理事長）

1946

戦時中の東洋「永」和から 再び東洋「英」和に

太平洋戦争に突入すると、敵性国イギリスを表す校名の「英」の文字が問題視され、東洋「永」和女学校と改称。当時のハミルトン校長をはじめ、宣教師たちは帰国を余儀なくされた。終戦後、1946年11月30日に東洋英和女学院の名称となり、ふたたび英和としての歴史がはじまった。



Contents

表紙写真：学院創立者ミス・カートメルの聖書と校章のバッジ

[巻頭特集] *Explore the roots of Toyo Eiwa*

P.01

英和らしさのルーツをたどる

From Kaede's Garden

P.09

楓の園から [学院 NEWS]

P.15

Cartmell's Prayer [宗教教育委員会]

P.17

教員紹介

P.19

学院人事

P.21

東洋英和楓の会



田之上(谷口) 濱子さん

1947年高等女学科(現高等部)卒業。
小学科(現小学部)6年生のときに太平洋戦争が勃発。戦時中は、学徒勤労動員で校内に設置された工場における就労を経験した。

カナダから六本木へ

カナダ婦人宣教師が作られた六本木の学び舎で
生徒たちは何を教わり、何を得たのでしょうか。
世代の異なる3名の高等部卒業生のその後の人生を追いました。

英和での出会いと、
人とのつながりが
人生を豊かにしてくれた

私

が小学科6年のときに太平洋戦争が起こり、その後、約4年にわたって戦火が絶えませんでした。ですので、私の英和時代は激動の日々でした。

小学科4〜5年のころは、ミス・ハミルトンに英語の歌を教えていただいたのを覚えています。ミス・ハミルトンは背が高く、いつもおしゃれな洋服を着ていらしたので、子ども心に憧れの眼差しで見っていました。ですが太平洋戦争に突入すると、ミス・ハミルトンは交換船で帰国。生徒は学徒勤労動員に駆り出され、勉強どころではありませんでした。東京大空襲で担任の先生がお亡くなりになったり、疎開していた同級生が学校に戻ってくるまでにかかりの時間がかかったり、とにかく大変な思いをしました。ですが、そのぶん団結力が強くなったのだと思います。

ます。卒業翌年の昭和23年だったのでしようか、私の自宅に先生方や同級生を呼んで励まし合った日から、ほとんど毎年欠かさず、皆で集まる機会を設けています。お互い遠慮せずなんでも言い合えて、素の自分を見せられる場があることが、戦後の厳しい時代を生き抜く上でどれほど心の支えになったかわかりません。

なかでも岩原さかえ先生は、卒業後、先生がお亡くなりになるまで、同級生とともにお付き合いが続きました。先生は国語の教師でしたので、私たちのために特別授業を開いてくださり、しかも毎回課題が出て、提出を忘れると電話で催促が来るんです(笑)。和歌や歌舞伎のことも、あなたたち、何も知らないのねえ」などと言いながら熱心に教えてくださり、ときには一緒に旅行もし、楽しい時間を過ごしました。学校を卒業してから、先生と長く深いお付き合いができることは夢にも思いませんでした。

戦争という苦しい経験はしましたが、東洋英和の多くの人とのつながりが、私の人生をより良きものに変わってくれました。東洋英和への愛校心、先生・同級生とのつながりは、私にとってかけがえのない、いつまでも忘れたいものです。

Letter from Canada



英和で培ったのは自分を支える背骨



マウントアリソン大学
在学中
大橋永理さん
(2015年高等部卒業)

国

際線のパイロットを目指して私は今、マウントアリソン大学で学んでいます。主専攻は航空学、副専攻は宗教学で、航空学ではパイロットのライセンスを取得するための航空理論や航空法、気象学などの科目の勉強と、小型機での操縦練習、宗教学では主にキリスト教思想史のクラスを取っています。マウントアリソン大学はリベラルアーツ大学で、専門以外の科目を広く履修できることも、将来の夢と興味のあることを両立させたい自分に合っていると思います。

学内の至る所にスクールカラーのガジェットとゴールドが使われているところや、チャペルで行われる礼拝は東洋英和とよく似ています。学生がさまざまな活動に主体的に参加しており、教授と学生の距離が近いことや、お世話になった人にお礼のカードを書いた



松木絵里さん

1998年高等部卒業。幼稚園から高等部まで東洋英和で学ぶ。1993年に取り壊されたヴォーリス設計の旧校舎、1996年に完成した現在の新校舎の両方で過ごす。慶應義塾大学医学部を卒業後、現在は同大学病院の血液内科および臨床研究推進センターで、医師として臨床業務や各種研究に携わる。

自他の個性を認め、得意なことを伸ばす英和の学び

旧 校舎と新校舎の両方で学ぶという貴重な経験をしたのが、

私たち1998年の高等部卒業生です。当時は、旧校舎がなくなること、それをほど大きく捉えていませんでしたが、今思い出されるのは、堂々とした風格のある旧マーガレット・クレイグ記念講堂や旧体育館など、趣のある旧校舎のことばかり。旧校舎を知らない世代も増えていると思いますが、建物は新しくなっても、ずっと受け継がれている英和の歴史は忘れないでほしいです。

振り返ると、英和には一人ひとりの個性を尊重する土壌がありました。周りと競争するのではなく、自分のやりたいことや得意なことを見つけて伸ばす。そして、ほかの生徒の個性や優れた点も認める。みんな自分をしっかり持っているのです、卒業しても有名無名問わず、それぞれの道

で自分にしかできないことを追求している人が多いと感じます。

先生方も、生徒の個性や得意なことをきちんと見ていてくださいます。私は生物が大好きだったのですが、生物の先生が海外の大学で使われている教科書のコピーをくださったりして、強制ではなく、その子の得意なところを伸ばそうとサポートしてくださいました。また、英和では英語や外国文化に触れる時間が多く、語学力や国際感覚が身に付くところも自慢できると思います。

いざとなると結束するのも英和ならではです。新講堂にパイプオルガンを置く話が出たときは、卒業生、関係者から多くの寄付が集まったと聞きました。自分には直接関係しないことでも、「後輩に本物のパイプオルガンの音を知ってほしい」と、誰かのためを思って行動できるところが英和生ではないでしょうか。

私が従事する医療の仕事は、使命感がなければ務まりません。今の自分を支えているのは「誰かのためになることをしたい」という思いで、そのベースとなっているのは東洋英和で教わった「敬神奉仕」の精神です。卒業してからより強く、東洋英和で学んだ意義をかみしめています。



マウントアリソン大学はカナダ・ニューブランズウィック州にある州立大学です。第15・17代校長ミス・ハミルトンの母校で、現在も中高部のカナダ語学研修や大学の海外英語実習が行われています。

りして、感謝の気持ちを忘れない学生が多いところも英和時代を思い起こさせます。また英和時代、英語劇部やカナダ短期留学で親しんだ『赤毛のアン』は常に私の身近にあり、大学からほど近い場所にあるプリンスエドワード島には何度も遊びに行っています。

卒業して何年経っても、世界のどこで暮らしていようと、東洋英和で育った人には英和の精神が背骨に通っており、何があっても自分を見失わない指針になっていると思います。一人ひとりに共通してある背骨からいような可能性が生まれるのも英和生の魅力で、私自身、自分のやりたいことや興味に矛盾を感じたことはありません。今でも、卒業式で高橋貞二郎先生がおっしゃった「強く、雄々しくあれ」という言葉を毎年手帳に書き、心に刻んでいます。もし自分の進むべき道に迷っている人がいたら、英和で培った価値観と神様を信じて行動すれば、後悔のない結果に結びつくのではないのでしょうか。



(左から) 西(君山) 史子さん、
川崎木美特任教授、飯塚彰子さん。

六本木から横浜へ

1989年に大学が開学され、新たな歴史を刻み始めた横浜校地。
開学当初、教員や学生はどのようなときを過ごしていたのか、
新設校ならではの苦労や、当時の思い出を語ってもらいました。

りましたから、社会科学科の人たちと一緒に授業を受ける機会が多かったですよね。

飯塚 他学科の人とも仲は良かったですが、先生方、食堂や守衛の方とも、挨拶はもちろん、他愛のないことをよく話していました。緑が豊かであり、気持ちがいいので、勝手に学内でパーベキューをしてひどく叱られたこともありましたが……。
川崎 飯塚さんは、当時から自由闊達だったわよね(笑)。

授業やゼミで物事を客観的、多角的に捉える力を養った

川崎 英和の人間科学の魅力は、人間の心や行動を心理学、社会学、教育学、宗教学の4つの学問分野から多角的に捉えるところですが、自分はどこに重点を置いて学ぶかを入学後に考えられるのもいいですね。

西 私は、入学当初は心理学に興味がありました。でも学んでいくうちに社会学に興味が出てきて、川崎先生のゼミに入りました。

飯塚 私は高等部のときに参加していたYWCAのボランティア活動を通して高齢者福祉に興味を持ったので川崎ゼミに入りました。

西 ゼミでは川崎先生がパワフルで沖縄の女性高齢者の自殺率が低い原因を探るための現地調査を2週間もしましたよね。その時の経験、また、

川崎 西さんと飯塚さんが入学した年は開学からまだ3年目だったから、「自分たちで伝統を作っていこう」という空気がありましたね。また、「学内ですれ違う人にはみな挨拶をしよう」と初代学長の朝倉孝吉先生が、ことあることに呼びかけておられました。

西 私は大学から東洋英和に入りましたが、学科に関係なく、誰とでも「こぎげんよう」と挨拶し合う環境がとても心地良かったんです。

川崎 今も学部学科の枠を超えて学生が学んでいます。当時は、人文学部だけの1学部制で、その中間科学科と社会科学科の2学科があ

2019年、大学開学30周年を迎える

横 浜校地に、1989年開学された東洋英和女学院大学。当時、国内の女子大として初めて政治・経済・社会等の中核に据えた社会科学科を設置するなど、高い語学力と深い教養を身に付けた女性を育成してきた。また恵まれた環境を生かし、クラブ活動を推進。広いグラウンドやゴルフ練習場、アクア・エクササイズ・センター、ラーニング・コモンズなど、施設を充実させ学生生活を支えている。



1986年当時のキャンパス



横浜校地のオープンと同じ1986年に創刊された学院報(上の写真は創刊号)。東洋英和の校歌(北原白秋 作詞)の歌詞「楓よ、楓の園」にちなんで「楓園」と命名された。



▲「校内の樹木が大きく育ち、いろいろな施設も増えて、大学開学のころから長い年月が流れたんだと感じますね」と語り合う3人。

▼川崎研究室にて。久しぶりの再会にもかかわらず、当時と同じように話が盛り上がる。仕事のこと、学生時代のこと……話が尽きない。



▲ゼミでは夏休みに沖縄の高齢者を対象に社会調査を実施。左は皆で書いた調査報告書。右の写真は調査地の一つ、読谷村残波岬の日没風景。当時、川崎先生が撮影したもの。

川崎先生は生活科学の授業を通して物事を客観的、多角的に捉えることに開眼したと思います。私は企業で人事の仕事をしていましたが、個々の社員を理解したり、事象を捉えたりするのに役立っています。

飯塚 川崎先生には、意見を言うときは必ず根拠を求められました。統計データの読み方を学んだことも、今私が人の話やマスコミ報道を鵜呑みにしないことにつながっていますし、仕事にも役立っています。

英和はみんなが切磋琢磨して国際性や語学力を磨ける環境

西 あの当時、英和には帰国子女や留学生、社会人などいろいろなタイプの人がいたので、文化や経験の違いから学ぶことも多かったんです。

川崎 国際的に活躍する女性を育てるという英和の教育目標にふさわしい環境だったといえますね。飯塚さんが「これからは中国の時代よ」と、卒業するとすぐに中国に留学したところにはびっくりしましたが、その後、中国で日系企業を支援する会社を起業したことに驚きました。

大きな後押しになりました。

自分たちがほしいものは自分たちで作り上げた

川崎 新設校なので、「ほしいものは自分たちで作りなさい」ということも朝倉学長の教えでした。西さんはボランティアサークルを自分たちの手で立ち上げたのよね？

西 初めはボランティアに興味はなかったのですが、静岡英和出身の友人がいて、彼女たちに誘われて学外のボランティア活動に参加していました。そんなサークルを学内にも立ち上げようと動き始めたときに、1期上の人が立ち上げると知り、公認サークルと認めてもらうためには規定人数が必要なので先輩たちと一緒にやろうということになりました。

飯塚 「ないなら作る」という考え方は、今も私の中に生きています。私は現在、学生時代からの夢であった「その人らしい最期」が迎えられる高齢者施設を作ろうとしていますが、正看護師の資格をもった経営者になりたいと思って看護学校に通っています。「理想とする施設がないなら自分が作ろう」と思えるのは、東洋英和で学んだからだと思います。

西 私たちの世代は1年次の終わりにバブルが弾け、就職氷河期と言われる大変な時代でしたが、みんな

協力し合い、励まし合いながら、たくましく生きていたなと思います。時代の巡り合わせでもありましたが、ポジティブで明るくて、どんなところにも悠々と構えていられるところが東洋英和生の良さですよ。

川崎 先輩が培ってきた伝統や英和生らしさを、後輩も受け継いでいてほしいですね。

鼎談してくれた方々



西 (君山) 史子さん

人文学部人間科学科の3期生。1995年3月卒業。在学中、学内外のボランティアサークルで活動。卒業後は、大手メーカーで採用や社員教育に携わる。



川崎末美 特任教授

東洋英和女学院大学が開学された1989年4月に専任講師として着任。専門分野は家族社会学と生活学。2017年3月、人間科学部人間科学科教授を退職後現職。



飯塚彰子さん

人文学部人間科学科の3期生。1995年3月卒業。小学部から16年間東洋英和に通う。現在は准看護師として総合病院（透析室）に勤務しながら正看護師をめざして勉強中。

A Graduate's Voice

多様性を受け入れ、自分らしく成長できる場所

東 洋英和では語学としての英語だけでなく、多様な国の文化や対日関係を学ぶうち、日本と世界をつなぐ仕事がしたいという思いを強くしました。大学2年次には8か月間アメリカに留学し、異なる国、地域の人と関わることで、自分の世界や可能性の広がりを実感するとともに、行動力や挑戦する力が得られたと思います。東洋英和らしさとは、自分らしくあることだと思

います。講義でも多様性を受け入れることを学びますし、いろいろな価値観を持った人を受け入れる考えが学生全体にあり、自分らしくいられる居心地の良い場所です。私は今、グローバルに事業展開する企業の、商社部門の営業として働いています。夢の一步を踏み出したばかりですが、日本と世界をつなぐ架け橋となるために、これからも自分らしさを大切に、成長していきたいです。



2018年3月 国際社会学部
国際コミュニケーション学科卒業
興和株式会社勤務

渡邊菜月さん

英和今昔物語

祝!!
「楓園」
リニューアル
記念!!

英和生が特別な思いを抱く伝統の学校行事が
今と昔でどう変わったか、また変わらないものは何なのか、
写真とともに見ていきましょう。



1938年開設の野尻宮沢のキャンプサイト



1938

野尻キャンプサイト



1979



1978



戦中に売却されたが、1970年に野尻（桐久保）に新たに建てられたキャンプサイト。



2017



1922

卒業式



2018



幼稚園



小学部



高等部



大学

80年以上の歴史を持つ野外教育の場

1 938年に野尻湖畔に開設されて以来、東洋英和の教育に不可欠な野外教育の場として位置付けられる野尻キャンプサイト。戦中には一度売却され、1990年代半ばに存続の危機に見舞われるも、多くの教職員、卒業生、保護者の熱い思い、サポートによって引き継がれて

きた。現在、夏期学校、訓練キャンプ、野尻キャンプなどが中高部で行われており、キャンプではリーダーとしてトレーニングを受けた大学生（卒業生）が、教員とともに指導に当たるのが伝統。野尻キャンプサイトには、東洋英和に連なる人々の熱い思いが詰まっている。

1888(明治21)年から続くセレモニー

人生の節目の大切なセレモニーである卒業式。第1回目の卒業式は1888(明治21)年まで遡り、1922年は当時の校長ブラックモア、クレイグ、ハミルトンが参列している。現在、小学部ではハレルヤの合唱、高等部ではロッキーニの「信仰」「希望」「愛」の合唱、大

学ではガウンとキャップを身にまとったのが特徴。また、幼稚園から大学院まで行われている慣習として、レントリリー(受難節のユリ)と呼ばれる黄色いスイセンが卒業生に贈られている。「敬神奉仕」の精神を胸に刻み、今年も多くの卒業生が巣立っていった。



短期大学時代、
初めての「かえで祭」
パンフレット
(1958年)



大学開学後初めて行われた
「かえで祭」パンフレット
(1989年)

第3回、第4回パンフレット
(1971・1972年)



名称を「楓祭」とした
第1回目のパンフレット
(右・1969年)



旧短期大学校舎（六本木校地）前でのフォークダンス



1959 かえで祭 (短期大学・大学)



1994



短期大学チアリーディング部 GRACES。テントの後ろの駐車場は、現在5号館が建っている場所。

1990



2017



1971 楓祭 (中高校)



1984



定番の手作りゲート。1984年には創立100周年を迎えた。

1982



2017



短期大学から大学へ受け継がれるイベント

毎年11月初旬の2日間、横浜校地の東洋英和女学院大学で行われているかえで祭。実行委員会を中心に、テーマの設定や模擬店、研究発表、パフォーマンスの企画は全て学生が主体となっている。1989年に開催された、大学の第1回目のかえで祭は、東洋

英和に「新しい風」を吹き込みたいという思いから“A New Wind is Blowing”をテーマに、1年生のみで実施された。第3回目には大学と短期大学の共同プロジェクトとして開催され、横浜校地が一丸となって、学内外での交流を活性化するというイベントとなっていた。

初めて生徒主体で運営した学校行事

楓祭と命名し開催された1969年の文化祭。それまでの学校行事は、学校から与えられるものだったが、楓祭は、初めて生徒が主体となって企画・運営、パンフレットの制作などを行った。記念すべき第1回目のテーマは、「私達は敬神奉仕とどの様に結びついているか」

だった。今日は、各クラブ、同好会が日ごろの成果を発表する場となっており、英語劇部や音楽部をはじめ、ダンス部、合唱部、ハンドベル部など、高いレベルのパフォーマンスが披露されている。2018年度には、第50回目の節目を迎え、半世紀にわたる伝統が受け継がれていく。

From Kaede's Garden



桜の下、グラウンドから続く坂道を歩くのはラクロス部の学生たち。
新年度の始まりは慌ただしい季節ですが
横浜の自然豊かなキャンパスではゆったりとした時間が流れています。

学長再任挨拶

学長 池田 明史



このたび、大学学長として再び4年間の任期を仰せつかることとなりました。過去4年間も、大学を取り巻く環境の激変のなかで、教職員一同と共にさまざまな変革に取り組んできたところです。今後本学には、加速度を増す社会の変化をいち早く察知し、これに迅速に、しかも主体的に対応していく力がいっそう求められることとなります。なぜなら、現在進行中の変化は、さまざまな「モノ」がインターネット

つながり (Internet of Things/IoT) それを人工知能 (Artificial Intelligence/AI) が制御するようになる、いわゆる「第4次産業革命」と呼ばれるものだからであり、そこではスピードこそが決定的な要素になるからです。しかし同時に、私どもはそのようなスピードの競争それ自体にいったいどのような意味があるのかを常に問わねばなりません。それはつまり、IoTやAIの導入で、労働を合理化し代替するのは「何

のためか」という問いにほかならぬのです。大学の社会的使命は、したがって、AIやロボットによって代替される可能性の高い労働に替えて、代替不可能な、人間にしかできない質の高い仕事に任じることができるとような人々を育成すること尽きるだろうと思います。

もとより、見方を変えればこのような超スマート社会の出現は、「敬神奉仕」の建学理念を掲げて肅々と社会の木鐸を輩出し続けてきた私ども東洋英和女学院にとって、その本来の存在意義を発揮しうる好機であるとも言えます。科学技術が発展するに伴って、人間と社会に対する見識の高さと深さが増えることになるからです。そのような見識こそ、AIによる代替がもつとも不可能な領域であり、キリスト教に則った全人教育を謳って東洋英和が目指してきたところなのです。大学においては、次年度以降の「英和スピリッツカリキュラム」を導入し、この見識の涵養に努めたいと考えております。

当面は、到来する人口減少社会に対応して、国際化や社会人リカレント教育体制の構築といった喫緊の課題に、スピード感を持ちつつ主体的に取り組んで参る所存です。「疾風怒濤」の再任期間となるはずですが、皆様の御理解と御協力を賜ることができれば誠に幸甚です。

【全学教育の再設計】
「英和スピリッツ」を
掲げたカリキュラムが
次年度より始動

国際社会学部国際社会学科准教授
小寺 敦之

本学では2019年度より「英和スピリッツカリキュラム」をスタートさせます。

「英和スピリッツカリキュラム」は、本学がどのような目的で教育を行い、どのような人材を育てていくのかをカリキュラムの観点から具体化したものです。大学を取り巻く昨今の流れとして、例えば中央教育審議会が各大学がそれぞれの特徴を「入学選抜」「カリキュラム編成」「学位授与」のポリシーとして明示するよう求める答申を示し、また多くの大学もそれぞれの建学理念に基づいた教育の在り方、社会貢献の方向性を発信するようになっていますが、本学は「英和スピリッツ」という理念を軸に、こうした要請に応えていこうと考えています。

私たちは「誰かのために、まず私から始めましょう」というカートメル女史の言葉を、東洋英和の学生が宿すべき精神性と考え、これを「英和スピリッツ」と名付けました。そして、全学生に向けて開講される共

通科目と、各学科の専門科目との両輪がこの精神の体得に結びつくという理念ベースのカリキュラム設計に臨みました。

本学での必修科目であるキリスト教に関する学びでは、政治や経済とキリスト教との関係を学ぶ選択科目を設置します。また、女性の健康や保健衛生を学ぶウェルネスの講座も設けます。本学の伝統的科目であった「女性学」は、より幅広い観点から女性の生き方を学ぶ「ライフデザイン」へとリニューアル。実用的なキャリアデザイン科目も複数設置します。

新しい試みとしては、第二外国語と同じ扱いで「手話」のクラスを設けます。また、開学以来掲げてきた「リベラルアーツ」を具現化するために、各学科の専門科目の一部を全学に開放する、つまり他学科の学生が他学科の専門科目を履修しやすくなる仕組みを整えます。

これらの科目群は、「自立」を促し、人とともに「成長」しながら、「好奇心」を育み、社会へと飛び立つ人材の育成に寄与すると考えます。英和独自のユニークなカリキュラムの展開にご期待ください。



英字新聞「MAPLE TIMES」 「全国英字新聞甲子園」優勝までの道のり

中高部英語科教諭・英会話部顧問
松浦 由佳

今 年度、中高部英会話部では新しい試みとして、英字新聞を制作いたしました。スピーキングとは違い、新聞というメディアを通して英語で情報を発信していくには、語学力だけでなく、発想力、構成力、情報収集・分析力などが求められるため、今回の活動は部員にとって大

新聞制作を共に頑張った部員たちと！



きな挑戦の機会となりました。4月から活動をスタートさせ、約半年間で新聞完成を目指した部員たちは、学年を超えた集団の中で互いにコミュニケーションを頻繁に図り、助け合うことにより、持てる力を最大限に発揮しました。猶予のないスケジュール計画だったため、楓祭に間に合わせることもできたかと思いましたが、明確な目標設定をしたことにより、生徒のやる気と探究心に火が付き、活動日以外にも集まるなど自主的な活動に結びつきました。また、新聞記事の書き方に関して、読売新聞社・一般社団法人グローバル教育情報センター(GEIC)の方々からアドバイスを頂いたことにより、部員たちの書いた記事に新たな視点を与えられ、より精度の高い記事を完成させることができました。

テーマ設定に関しては、生き生きとした英和生らしい着眼点を大切にすするため、生徒の自主性を重んじました。部員たちが話し合った結果、「東洋英和女学院中学部高等部」に焦点を当て、生徒の視点を通して、本校を知らない方たちが興味を持つ

てくださるようなテーマにしたいという結論になり、現英和生の愛校心が表れるような紙面構成となりました。その結果、GEICの主催する「第2回全国英字新聞甲子園」にて、英語の表現力のみでなく、内容の多様性、写真の質についても高い評価を頂き、優勝することができました。

このプロジェクトを通して、生徒たちは英語力の向上はもちろん、事実を客観的に正しく伝える視点、チームメンバーとさまざまな考えを共有しながら新しいものを生み出す力を養うことができました。今後とも



制作した英字新聞「MAPLE TIMES」

活動の性質を活かし、更なる知的好奇心を育てる活動を進めてまいりたいと思います。

また、実際の記事「MAPLE TIMES」と詳しい紙面の紹介は中高部のHPに記載しておりますので、お読みいただけましたら幸いです。

部員と共に味わった 達成感と感動 2017年度英会話部部長 大塚 みらい

英 字新聞制作のきっかけは、顧問の松浦先生がご提案くださったことでした。近年の英会話部には部としての明確な目標がなく、部長として何か部活動が活気に満ちるテーマがないかと思案していました。その時、松浦先生から英字新聞制作のアイデアをいただき、私自身も以前から英字新聞制作に携わりたくと考えていたこともあつて躊躇なく制作を決めました。

10月に開催される楓祭での新聞配布を目標とし、この限られた時間の中で今の私たちを精一杯表現することに挑みました。一般社団法人グローバル教育情報センター(GEIC)の『英字新聞制作プロジェクト』の

プログラムを利用し、作成を開始しました。しかし、私自身も含め部員の誰しもが初めての新聞制作。全てが手探り状態だったため困難を極め、思い描くように進みませんでした。そして、何よりも部長である私が編集長として役割分担や指示を出し、部員をまとめることに不安を抱き、何が分からないのかも分からず当初は右往左往しましたが、その度に部員に支えられました。

英字新聞に限らず全ての新聞において、ある程度の工程は共通しています。掲載テーマを選定後それぞれに取材・調査を行います。通常はここで記事を書き入れ紙面がで上がるのですが、英字新聞の場合は記事を英語に翻訳するという作業が加わります。まずはテーマ決めから始めました。ただ単純に自分たちが好きな話題をテーマにしてしまうのではなく、読者の興味を引くもの、幅広い読者に関心を抱いてもらえるテーマにしなければなりません。意見は出るものなかなか決まらず、このテーマ決めは4〜6月の3ヶ月も費やしてしまいました。やっとテーマが決まり、いよいよ取材開始です。新聞作りの醍醐味の一つではある取材ですが、これが大変でした。アポが取れなかったり、取材NGだったりと行き詰まり、テーマ自体が取りやめになって振り出しに戻ることに

随所で起こり、挫折しそうな時もありました。そんな最中、校内に関するテーマは取材・調査先が学校関係者であったことから順調に記事が完成しました。そのことが大きな励みとなり、気を取り直し頑張ることができました。こうしてどうにか夏休みが始まる頃には英訳する段階まで進捗しました。

夏休みの間、G E I Cの方にアドバイスをお願いし、より良い記事に仕上がりました。新聞制作は記事を書くことが全てではありません。確かに新聞において記事の密度は大変重要ですが、その新聞を手取るか取らないかが決まるのは何と云っても外観、レイアウトといった視覚的な要素に依ります。この重要なレイアウト作業は夏休み明けに始めました。写真部にも撮影協力をしていただき、意見を出し合いました。例えば、注意を引くために第一面に



"Can you guess who I am?" 新聞制作の他、中学生も楽しんで英語を使える活動もしました。

は大講堂の壮大なオルガンの写真を配置し、字面ばかりで飽きないように程良い所に写真を入れました。この時は完成の近づくを予感し、楽しく作業ができました。

そして10月初旬、遂に私たち自身で作った新聞が手元に届きました。4月から約半年間、苦戦した新聞が今やっと無事に完成したと思うと感慨深く、それと同時に編集長としての安堵感でいっぱいでした。楓祭で来客者の方々に配布した際には、たくさんのお褒めの声を頂戴し、本当に頑張ってきた良かったと感無量でした。

楓祭が終わって暫く経った頃、松浦先生から英字新聞甲子園への出場の話がありました。この甲子園があることは当初より知っていました。が、初心者私たちが出場するなど全く目標にしていませんでした。

しかし、私たちの作った英字新聞が少しでも多くの人に知ってもらえれば、と思ひ応募してみることにしました。それが思いがけず優勝してしまったのです!! 最初は嬉しいという気持ちよりも驚きの方が大きく、優勝と入賞の言い間違いなのではないかと思つた程です。徐々に達成感が込み上げ、努力した甲斐があったね、と顧問の先生方と部員一同で喜びに浸りました。

今回の英字新聞制作は、私を大きく



全国の中高生が英字新聞制作プロジェクトの成果を競うコンテスト「英字新聞甲子園」。2017年12月に開催された第2回大会で英字新聞賞優勝を果たしました。

成長させてくれたと同時に、今後の糧になると感じています。編集長としてみんなをまとめ上げる力、世間の流行りを捉える力、アポを取る時の文面とその送り方、人の注意を引くレイアウト作りなど。しかし、このような実用的な事だけではなく、部員全員で成し遂げたものが評価された時の達成感と感動を得られ、本当に英字新聞制作を行って良かったと心の底から思います。

『英字新聞甲子園優勝』『英和部活動で初の全国制覇』という功績は、部員一人ひとりの努力、そして顧問の先生方や取材に応じてくださった皆さま、協力をしてくださったG E I Cの方々、ぎりぎりまで校正に応じてくださった東洋英和女学院大学ドキュメントセンターの方々など、多くの皆さまのお力添えがあってこそ為し得たことと心より感謝をしています。そして、どんな時も私を信じて共に頑張ってくれた部員を誇りに思います。



「先生、このメガネがにありますよ」

「2年生の生活科」
「お店屋さん」と「おもしろ」

小学部教諭 鈴木康之

小 学部の生活科では、子どもたちの身近な自然や社会について、具体的な活動や体験を中心に学習しています。2年生の生活科では、7月～9月にかけて「お店屋さん」を開いて、ものを作る（生産）喜び、働くこと（労働）の意義、そして売

るための工夫を、体験活動を通して

学びます。また、10月には、自然との関わりを深めるために郊外の農園に「おもしろ」に行きます。何でも簡単に手に入る消費生活をしている子どもたちにとって、「さつまいもは、スーパーで売っているもの」という認識が一般的です。毎日食べている野菜を作るには、畑づくり・苗植え・草むしり・追肥・害虫駆除などをする農家の方々のお世話が必要であることを農園に行つて見学したり、土に触れたりしながら、実際にさつまいもを掘るといふ体験的な活動をしています。



大きいおもしろがたくさんとれました

《お店屋さん》

2

年生になったお姉さんたちは、5月に1年生を連れて学校たんけんをして、お姉さんぶりを発揮します。そして、7月にお店やさんの準備をして、9月にお客さんとなる1年生をおもてなします。1年生に喜んでもらえる品物を、工夫しながら作ります。先生方もお買いものに来てくださり、毎年「商店街」は、大賑わいです。

《おもしろ》

毎

年おもしろをするために、郊外にある農園に出かけます。9月から秋の野菜、主にさつまいもについて、子どもたちは、学びを深めてきました。10月下旬の爽やかな日に、目を輝かせて一生懸命にさつまいもを掘る子どもたちの姿を見て、実際の体験こそが一層成長させているのだと実感しました。





東洋英和幼稚園
バングラデシユに
想いを寄せて

元 園長 丹羽輝子先生が
ACEF (アジアキリスト教
教育基金) と関わりを持っていたこ
とをきっかけに、幼稚園でも約30年
にわたり、その活動を支え、バング
ラデシユのことを想ってきました。

当初、子どもたちと共に何かできな
いかと考え、ぎんなん献金の献金先
として捧げ始めました。

ACEFの主な活動はバングラデ
シユに寺子屋(小学校)を新たに建
て、たくさん子どもたちが教育を
受けられるように経済的に援助する
というものでした。ところが、東日
本大震災が起きてからは、援助が少
なくなってしまうのが現状で、現
在は今ある寺子屋を維持できるよう
に活動している事を教えていただき
ました。それを知った年長の子ども
たちは、今までの経験から、今年も
ぎんなん献金を捧げようと考えまし
た。しかし困った事に、今年度は園
庭のいちようの木にぎんなんがあま
り実らず、数が非常に少なく、小学
部の先生方も心配してくださるほど
でした。

そこで、子どもたちとどうしよ
うかと相談を始めました。献金をして

くださる方が喜んで捧げてくださるよ
うにと例年とは方法を変えてぎん
ん献金を集める事に決めました。そし
て、「ぎんなん献金コンサート」と「バ
ングラデシユホールカフェ」を保護者
対象に開催することにしました。

〈ぎんなん献金コンサート〉は、幼
稚園で歌っている子どもたちが好き
な曲を歌い、踊りを舞ったり、〇×
クイズでバングラデシユの事をお客
様に知らせる機会としました。〈バン
グラデシユホールカフェ〉では、バン
グラデシユでよく飲まれているチャ
ーとそれに合うロシアクッキーを
作り、召し上がっていたたく事を考
えました。飾りつけにも、当日のお客
様へのおもてなしにも励みました。

こうして、バングラデシユのために
子どもたち一人ひとりが一生懸命手
を動かし、自分の持っている力を十分
に生かしました。そして、集められた
献金を1月に早稲田にあるACEF
事務局に年長児が届け、その時には
事務局の方からバングラデシユの様
子をお話と写真、クイズにて教えて
いただきました。

バングラデシユの事を想って自分
たちができる事を考え、行動してき
た子どもたちが、これからも他の人
のことを考え支え
合う気持ちを持ち
続けてほしいと心
から願っています。



大学付属かえで幼稚園
お店屋さん
行ってみようかな

4 月、新入園の子どもたちにと
っても進級した子どもたちにと
っても新しい環境での生活が始ま
りました。子どもたちは嬉しさ、期
待、緊張、不安等、さまざまな思い
を表して過(こ)しています。

5月、入園して一か月たった年少
組の子どもたちにとって、保育者が
お母さんに代わる身近な存在となっ
てきました。保育者は一人ひとりに
寄り添い、思いを理解し、安心が積
み重なるように支えています。

2017年5月のある日、年長組
の子どもたちが、「お店屋さんやっ
ています。1つ100円です」と言
いながら年少組の部屋にやって来ま
した。保育者が「何を売っているお
店ですか?」と聞くと、「パン屋さ
ん。大きい組でやっています」と
返ってきました。(年長組では絵本
『からすのパン屋さん』(作:加古里
子 偕成社)に出てくるさまざま
パンを紙でかたどり、クレヨンで色
を塗って、店を開く準備をコツコツ
と進めていました。)保育者と年長
組の会話を聞いていた年少組の子ど
もが、「行きたいな」とつぶやきま
す。保育者は「お店屋さんに行く時

はね、お金を持
って行くのよ」

と、小さな白い
紙に100と書
き手渡しました。

その時、年長組
の子どもが「一
緒に行く?」と
年少組の子ども
の手をとりまし
た。少しドキド
キしながらも、
「うん」とうな

ずき、年長組の子どもたちに手を引
かれながら、年少組の子どもたちが
パン屋へと出かけて行きました。年
長組の子どもたちは、年少組の子ど
もの足取りに合わせて、ゆっくりゆ
っくり歩きます。そしてパン屋のあ
る年長組に入って行きました。しば
らくすると、その子どもたちがカメ
の形のパンを片手に持って、年少組
に戻って来ました。「買ってきたよ」
と、満足そうな顔をしています。

さて、お店屋が気になるけれど、
なかなか自分から「行ってみたい」
と言い出せない子どももいます。そ
のような時は、保育者が「一緒に行
ってみましょう」と誘い、手をとっ
て出かけて行くこともあります。年
少組の子どもたちは好きなこと、好
きな遊びが見つかることで、安心し
て居られる場を広げていきます。





私たちの礼拝堂

東洋英和女学院が創立時から現在に至るまで大切にしてきた礼拝。場所は違いますが、礼拝を守る思いは同じです。今回は、各部がどのような所で礼拝を守っているかをご紹介します。

新マーガレット・クレイグ記念講堂。後方のパイプオルガン（独フィッシャー+クレマー社製 1997年設置）の奏楽で、毎朝讃美歌を歌います。

中高部

「敬神奉仕」を心に留め、 良き伝統を受け継ぐための場

中高部では、いろいろな場所で礼拝が守られています。新マーガレット・クレイグ記念講堂の正面には「敬神奉仕」の学院標語が掲げられ、毎朝この言葉を心に留めながら礼拝を守っています。メモリアルチャペルには旧校舎のチャペルで使用されていた椅子などが設置され、それらの物は礼拝を大切に守り続けてきた先輩の姿を思い出させ、良き伝統を受け継ぐ役割を果たしています。



1 東棟6階チャペル（正面のステンドグラスは、元小学部教諭 今野満利子先生の作品です）。2 西棟4階メモリアルチャペル（1933年に建てられた旧校舎のチャペルを復元しています）。両チャペルともクラス単位の礼拝などで使われています。

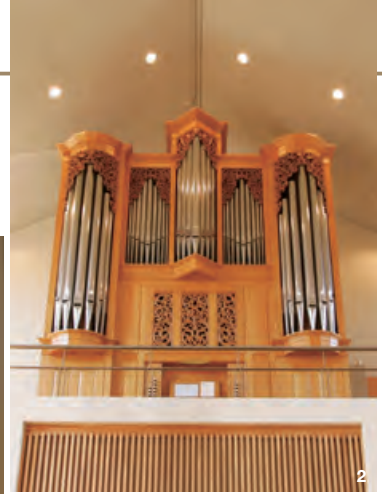
オルガンはオランダのライル兄弟社製。2006年2月に設置、同年3月6日に奉献式が行われました。



小学部

6年間の思い出の すべてが詰まった講堂

入学の日、在校生の作る花のアーチをくぐって初めて入った講堂は、その後6年間たくさんのものを与えてくれます。礼拝でいただく言葉、心と声を合わせてささげる祈りと賛美。クリスマスのお恵み。学芸会やコンサートの楽しい思い出。そして未来に向かって歩み出す卒業の日を受ける、豊かな祝福。すべてはこの講堂にあります。



大学

キャンパスライフを見守る 大学のシンボル

正面に高く掲げられた十字架、高い天井、吊り下げのライト、そして大きくとられた窓から差し込む自然光。しんとした礼拝堂に入ると、自然と背筋が伸びる、或いは大きなものに見守られているかのような思いを抱きます。日々の礼拝、クリスマス行事、コンサートで多くの人が集います。横浜校地の礼拝堂は、大学のシンボルです。

- 1 学院内外からの多大なる支援を受け、1990年7月に着工。翌1991年3月末に完成、同年5月1日に献堂式が行われました。
- 2 オルガンは米国ノアック社製。1993年10月に設置、同年12月4日に奉献式・記念演奏会が行われました。

大学付属かえで幼稚園

子どもたちから感じる 礼拝への喜び

かえで幼稚園の礼拝は主に1階ホールで守ります。子どもたちは、遊びの時間には、ここで積み木の家をつくったり、楽器を奏でたり、劇遊びをしたり、ダンスをしたりします。礼拝の時間の前になると、出してあったものを片付け、保育室から椅子を運んで来て並べ、準備をします。奏楽が流れる中ホールに入場する子どもたちからは、礼拝を喜びにしていることが毎回感じさせられます。



東洋英和幼稚園

チャペルコーナーで オルガンの奏楽に耳を傾けて

幼稚園の礼拝は、入園式などの行事以外、組ごとに各保育室で行っています。また、年長組は折に触れてホールの一角にあるチャペルコーナーに集まり、オルガンの奏楽に耳を傾け、落ち着いた雰囲気の中で礼拝を守ることが大切にしています。

教員紹介

―ご着任は1990年ですが、当時の東洋英和はどんな大学でしたか？

元成蹊大学長だった朝倉孝吉初代学長とのご縁で就任しました。開学2年目で、1、2年生しかいなかったのですが、まさに少数精鋭教育が実践されていました。教員数も少なかつたし、今では美しく咲き誇る桜の木も、当時は若木で細くて頼りなかつたですが、教職員と学生の距離がとても近かったと記憶しています。

―英和のお仕事のなかで、特に印象に残っていることは何でしょうか？

国際交流を活性化させるための活動ですね。海外の協定校を増やすことが使命のひとつでしたが、タイとの縁が深かった私は、タイの大学との協定をめざしました。チュラロンコーン大学には共同研究者や友人がいたので、目標の文学部日本語学科に根回しをしてもらってから協定交渉をしました。誰の紹介かというところが大切な国なので、交渉はとてもスムーズで、有難かったです。次はチェンマイ大学を目標としましたが、連絡が途切れていたチェンマイ大卒の友人を探して、街を歩き回ったんですよ。旅行業を営んでいた人なので、彼女の写真を片手に「この人、知りませんか」とホテルのトラベルデスクを回りました。そうしたら、2日目に「彼女なら知ってる」

▶▶▶ 学生からのメッセージ



交換留学生
(タイ・チュラロンコーン大学)
ペーラッタナクン チョンラコーンさん

竹下先生はとても優れた先生です。親しみやすく優しく一人ひとり丁寧に接してくださいませ。先生は異文化に通じ多言語を話せる方なので、先生と話す度に私の世界観が益々広がっていきます。授業ではよく意見交換するのですが、先生はどんな意見も客観的に聞いてくださるので、積極的に意見を述べる事ができて楽しく学ぶことができます。

Yuko Takeshita

ご縁に導かれて…

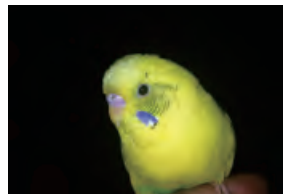


大学

国際社会学部
国際コミュニケーション学科

竹下 裕子 教授

カリフォルニア大学デビス校大学院(教育学専攻)修了。1990年着任。専門は英語教育、異文化間コミュニケーション、国際コミュニケーションマネジメント。教鞭をとるかたわら、NPO法人と一般社団法人でも活動。趣味はマニュアル車の運転、セキセイインコの飼育、そして韓国ドラマの鑑賞。



ニーファ、9歳、放し飼い

という人に会えて、めでたく涙の再会を果たしました。チェンマイ大学とも協定を結ぶことができたのは、この旧友の口添えのおかげです。

―留学などを通じて学生に学んでほしいことはどのようなことですか？

留学の目的はさまざまあると思います。満足して帰国する部分もあつて当然ですが、同時に、もつと学びたい、学ばなければいけないと、思いを新たにすることが大切です。言語に関して言えば、英米人と英語が通じるのは当たり前、さらに、アジアの人をはじめとする非母語話者と英語でつながる喜びを体感してもらいたいと願っています。

―グローバルに活躍しようと願う若者にメッセージをお願いします

私たちは皆、他人との関係のなかで生きていくわけですが、人との縁を大切にしたいと思えます。コネがないからうまく活動できないと嘆かないでください。私自身、着任直後に言われたのですが、「コネはなければ作るもの」なのだそうです。友人の写真を片手にチェンマイをさまよった私の原動力になったことばです。そして縁があった人々とは、差異があってもそれを嫌わず、逆に違いを楽しんでしましましょう。それこそが異文化間コミュニケーションの真髄ですね。

—英和に來られたきっかけと着任当初(1993年)の英和生の印象は？

大学卒業後、私立の男子校等で教鞭をとっていましたが、クリスチャンなのでキリスト教学校を目指して公募を受けたのがきっかけです。伝統ある女子校で、お嬢様学校と聞いていましたが、元氣過ぎて大変でした(笑)。担当した中3が特に活発で、すぐに先入観からの女子校モードを切り替えましたね。

—先生が感じる英和生の長所について

英和の生徒はとて多才で、勉強が不得意でも他に得意なものがあり、誰もが一番として胸を張って立っています。そして、競うよりもお互いを尊重し、いろいろな価値観を認め合える。また、特に芸術系に優れていて、文化的豊かさ、広がりを感じます。それから、先生に対して感情豊かに心を開いて素直になってくれるところですね。遠慮がなく、馴れ馴れしいという短所と裏腹ですが(笑)。

—教頭のお仕事は激務で、生徒には見えない部分が多いと思います

教頭にはさまざまな種類の細かい業務があります。授業や生徒に関わること以外は、主に教頭の仕事です。天候等緊急時の判断や問題への対応、入試広報、最近では国際教育やe-Portfolioのような大きな改革のコーディネーター等多岐にわたり、忙

Katsuhiko Kitazaki

英和生らしさを生かして、
人に喜んでもらえる生き方をしてほしい

▶▶▶ 生徒からのメッセージ



高等部3年
大畑 光さん

私は天文部の部員として5年間、北崎先生にお世話になりました。日々の活動や合宿では、先生は豊富な天文の知識を活かして、望遠鏡の使用法や天体写真の撮り方についての確かなアドバイスをくださいました。部員が何か質問をしたとき、その答えだけでなくそれにたどり着くヒントを先に示してくださったのが心に残っています。



高等部

教頭

北崎 勝彦 教諭

東京都生まれ。國學院大学法学部法律学科卒業。1993年4月より東洋英和女学院中学部・高等部教諭。社会科で主に政治経済を担当。2007年4月中学部教頭、2014年4月高等部教頭に就任。天文部顧問。趣味は天文、ドラム、スキー。2018年1月まで6年間、「楓園」の「英和星空探訪」コーナーを担当。



自宅の
観測ドームにて

しいですね。一方で、やはり授業は楽しいです。週2〜4コマを担当していますが、アクティブラーニングを取り入れて、少人数で大学のゼミのような形式の授業をしています。それから、教頭はクラブの顧問をしない場合もありますが、私は20年ほど天文部の顧問をしています。

—趣味の天文のことを教えてください

叔母(※)がアカデミックな人だったので、小学生の頃からプラネタリウムや博物館など、いろいろなところに連れて行ってくれたのがきっかけで、天文に興味を持ちました。中学生から自宅での観測を始めて、今は公共の科学館などに設置されているものと同じ大きさ(主鏡の直径40cm)の望遠鏡で、主に掩蔽(天体が天体を隠す現象)観測を行っています。

—英和生に望むことは何ですか？

英和で学んだ大切なことや英和生らしさを生かして、人に喜んでもらえるような生き方や仕事をしてもらいたいですね。特に、弱い立場にいる方々の役に立つような。多様性を尊重できる、みんなが一番になれる、そういう環境で育った英和生だからこそ、できることだと思います。

(※) 元東洋英和女学院短期大学・大学教授の伊勢紀美子先生

東洋英和楓の会講演会のお知らせ

『阿川佐和子氏講演会』

日時 2018年11月24日(土)14時～
(13時30分受付開始)
場所 中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
講師 阿川 佐和子氏 (作家、エッセイスト)
料金 無料

【テーマ】

いつも
喜んでいなさい



撮影
栢木
功

講師紹介

作家、エッセイスト

阿川 佐和子

東京出身。東洋英和女学院中学部・高等部を経て、慶應義塾大学文学部卒業。TBS「情報デスク Today」「筑紫哲也NEWS23」「報道特集」でキャスターを務める。以後、執筆を中心にインタビュー、テレビ等幅広く活動。1999年『ああ言えばこう食う』(檀ふみとの共著)で第15回講談社エッセイ賞、2000年『ウメ子』で第15回坪田譲治文学賞、2008年『婚約のあとで』で第15回島清恋愛文学賞を受賞。テレビ朝日「ビートたけしのTVタックル」、TBS「サワコの朝」にレギュラー出演中。近著に大石静との共著『オンナの奥義』(文藝春秋)。2014年第62回菊池寛賞を受賞。

【申込方法】

ご参加いただくにはWeb登録フォームにてお申し込みください(原則4名まで)。
9月下旬より東洋英和女学院のホームページにてご案内いたします。
※お申込は、東洋英和楓の会会員に限らせていただきます。

【申込期間】

2018年10月3日(水)～31日(水)
※定員になり次第締め切らせていただきます。

● お問い合わせ：東洋英和楓の会室(東洋英和女学院 法人事務局内)
Tel：03-3583-3354 E-Mail：kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

英和カラーを身につけてご参加ください!



東洋英和女学院大学同窓会 楓美会創立25周年記念会 2018年11月10日(土) 虎ノ門・霞山会館

『楓美会創立 25 周年記念会』

日時 2018年11月10日(土) 時間未定
場所 虎ノ門・霞山会館
(千代田区霞が関 3-2-1 霞が関コモンゲート西館 37 階)
料金 8,000 円

楓美会は本年 25 周年という節目の年を迎え、記念の会を開催いたします。講演会や交流会を企画中で、時間・申込方法・詳細につきましては、後日大学卒業生全員にお送りする案内状をご確認ください。また、会報や HP にて

ご案内する予定です。どうぞお召し物のどこかに英和カラー(ガーネット、ゴールド)を身につけてご参加ください。卒業生の皆様のお越しをお待ちしております。

●お問い合わせ: ガーネットハウス横浜
Tel: 045-922-9797 E-Mail: dousoukai@toyoeiwa.ac.jp
開館: 10~16時(月・木のみ)

港区と東洋英和女学院の連携事業



『東洋英和女学院大学 村岡花子記念講座』

日時 2018年10月13日(土)、10月27日(土)、11月17日(土)、
12月8日(土) 全4回 14時~
場所 東洋英和女学院大学大学院(六本木校地) 201 教室
定員 各回 200 名
料金 無料
申込方法 メール・FAX・往復ハガキにて事前申込制、先着順
申込期限 原則として各回開催日 2 週間前
共催 港区麻布地区総合支所

2018 年度の「村岡花子記念講座」は、村岡花子没後 50 年を記念した内容を企画しております。詳細につきましては

は生涯学習センター HP にて掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

●お問い合わせ: 東洋英和女学院大学 生涯学習センター
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 32
Tel: 045-922-9707 Fax: 045-922-9701
E-Mail: shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

共に讃美歌やハレルヤを歌いましょう



『東洋英和女学院同窓会クリスマス礼拝』

日時 2018年12月1日(土) 14時~
場所 中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂
礼拝 説教 東洋英和女学院院長 深井智朗牧師

学院同窓会は毎年 12 月第 1 土曜日にクリスマス礼拝を守っております。一緒にクリスマスの喜びのメッセージを共に讃美歌、ハレルヤを歌いましょう。礼拝後は小学部 4 年まで英和で過ごされた井上とも子

様にチェロを演奏していただきます。集会室でのお茶の会には、伝統のクリスマスケーキをご用意しております。同窓生心を合わせてのひと時へのご参加をお待ちしております。

●お問い合わせ:
ガーネットハウス鳥居坂 E-Mail: dousoukai-ght@toyoeiwa.ac.jp
ガーネットハウス横浜 E-Mail: dousoukai@toyoeiwa.ac.jp

校章をデザインとして組み込んだおしゃれな逸品



『楓の会ニューグッズ・楓ブローチ誕生!』

料金 3,000 円
カラー シルバー、ゴールドの 2 種類
販売 2018 年 11 月 24 日(土)の阿川佐和子氏講演会にて販売予定

マグカップに引き続き、新しい楓の会グッズが誕生いたしました。東洋英和楓の会のプロデュース・母の会会員の方のデザインによる「楓ブローチ」です。

シルバーとゴールドの 2 種類をご用意いたしました。2018 年 11 月 24 日(土)の楓の会主催の阿川佐和子氏講演会で販売予定です。乞うご期待ください。

●お問い合わせ: 東洋英和楓の会室
Tel: 03-3583-3354 E-Mail: kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp



没後50年 知られざる村岡花子の社会活動

東

洋英和の卒業生であり、翻訳家・児童文学者として活躍した村岡花子が亡くなってから今年で50年になります。花子には文学者としてのみならず多くの業績があります。

そのひとつは戦前・戦後にわたる「東京婦人会館（のちにカルチャーセンターのさががけとなる産経学園の前身）」での社会活動です。宝塚歌劇の創設者・小林一三（いっさ）の発案から生まれ、日本で初めてとなる婦人のための社交倶楽部の運営を花子は任されました。吉屋信子（小説家）、や市川房枝（婦人運動家・政治家）、東洋英和の卒業生の柳原白蓮（歌人）など多彩な女性たちが役員となり、東京有楽町の日劇の5階に、女性たちが集い、お稽古事もできる文化施設が1938年に設立されます。戦争のためその会館は閉鎖を余儀なくされましたが、戦後になって再スタートします。花子は再び婦人会



東京婦人会館で挨拶する村岡花子（1943年頃）

館の運営に従事し、花嫁修業が中心だったお稽古事教室が産経学園となり、現在の成人教育や生涯学習に通じるカルチャーセンターとなっています。手助けをしました。詳しくは「史料室だより」90号の特集記事と、本館・大学院棟1階の村岡花子文庫展示コーナーをご覧ください。

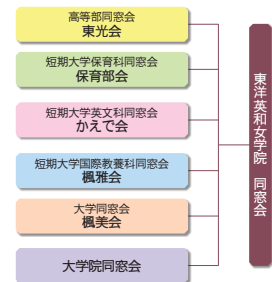
● 史料室 Tel : 03-3583-3166 / Fax : 03-3583-3329 <http://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>
● 「史料室だより」は右の URL からご覧いただけます。 <http://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/>

同窓会より

東洋英和女学院同窓会の今

「楓園」が新しくなったこの機会に、東洋英和女学院同窓会について、あらためてご説明いたします。開校時2名だった生徒も次第に多くなり、共に学んだ絆を豊かにするために同窓会は誕生しました。そして長くその名が東光会と称されてきたため、いまだに学院同窓会の意識が定着せず、旧来の東光会と混同されることが多いようです。横浜キャンパスの誕生、大学と大学院の開設、短期大学の廃止という変遷を経て、右の

組織図が卒業生3万数千名を超える現在の同窓会です。6月第1土曜日の総会、12月第1土曜日のクリスマス礼拝、学院との共催で捧げる10月1日の追悼記念日礼拝が主な行事で、同窓会だより、ホームページでお知らせしますのでご参加、ご協力ください。「敬神奉仕」のもと6会同窓会それぞれの特色を活かしながら、これからも学院の発展のために祈りつつ東洋英和女学院同窓会は歩み続けて参ります。



後援会より

2018年度後援会総会のご案内



後援会では、2018年度後援会総会を7月6日（金）に例年通りANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催いたします。総会では後援会役員会のご報告と、理事長・院長を始め学院各部から先生をお招きし各学部の報告および懇親会も予定しております。会員の皆様におかれましてはご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ともご出席くださいますようお願い申し上げます。

【2018年度後援会総会】

日時 2018年7月6日（金）18:00～20:45（予定）
 場所 ANAインターコンチネンタルホテル東京
 （港区赤坂1-12-33 Tel : 03-3505-1111）
 スケジュール・会場

- I. 総会
18:00～18:40 地下1階 プロミネンスⅢ
- II. 学院各部説明会 「学院各部の教育の現状について」
18:40～19:10 地下1階 プロミネンスⅢ
- III. 懇親会（立食パーティー形式）
19:20～20:45 地下1階 プロミネンスⅠ